

前回とりまとめと今回との比較

		<前回> (18件) 平成15年 3月工期	変化	<今回> (85件) 平成16年 3月工期
【効果】				
より双務性の高い設計変更				
「協議を随時実施することにより、設計変更に関するリスクを回避出来るようになった」	発注者側	20%		19%
	請負者側	39%		25%
「短い間隔で設計変更協議を行うことにより、受発注者間での協議内容の充実が図られた。」	発注者側	14%		13%
	請負者側	50%		44%
受注者のコスト意識の向上				
「変更協議や単価合意を行うことにより工種毎のコスト意識が向上する」	発注者側	27%		27%
	請負者側	52%		51%
経済効果の早期発現				
「毎月現金で支払うようになった、手形の期間を短くした、現金の割合が高くなった」 (従前から全額現金または短期手形で支払っている者を除く)	元 請	30%		34%
	下 請	25%		16%
「支払請求から支払いまでの間隔が短縮されたと思う」	元 請	23%		30%
	下 請	16%		11%
受注者の財務状況の改善				
「本方式により、借入金の削減、資金計画がたてやすくなり財務状況の改善効果がある」	元 請	44%		44%
	下 請	36%		29%
「仮に、ほとんどの現場で短い間隔で支払が実施されれば、会社の経営が楽になると思う」	元 請	53%		60%
	下 請	74%		66%
工事の品質の向上				
「工事の品質が向上する傾向にある」	発注者側	47%		54%
	請負者側	62%		57%
受発注者の技術力の向上				
「受注者の技術力が向上する傾向にある」	発注者側	33%		32%
	請負者側	39%		45%
【課題】				
部分払の頻度				
「工種・工区の区切り」	発注者側	49%		52%
	請負者側	56%		49%
「3ヶ月に1回」	発注者側	18%		22%
	請負者側	33%		25%
単価合意				
「単価合意を行った方が良い」	発注者側	59%		58%
	請負者側	100%		98%
前払金				
「必要な額は40%程度」	請負者側	44%		44%
	「必要な額は30%程度以下」	41%		43%
設計変更協議				
「以前と変わらない」	発注者側	61%		66%
	請負者側	61%		65%
「以前より大変になった」	発注者側	14%		18%
	請負者側	28%		18%
下請への支払い指導				
「毎月現金で支払うようになった、手形の期間を短くした、現金の割合が高くなった」 (従前から全額現金または短期手形で支払っている者を除く)	元 請	30%		34%
	下 請	25%		16%
「下請業者への支払に対する指導の効果はあがっている」	発注者側	28%		20%
	請負者側	42%		46%
出来高報告及び確認作業				
「作業量が増加した」	発注者側	50%		61%
	請負者側	67%		61%
「変わらない」	発注者側	28%		33%
	請負者側	28%		36%
既済部分検査の作業量				
「作業量が増加した」	発注者側	48%		54%
	受注者側	50%		59%
「変わらない」	発注者側	30%		31%
	受注者側	33%		38%
支払事務の作業量				
「作業量が増加した」	発注者側	78%		76%
	受注者側	33%		32%
「あまり負担に感じない、変わらない」	発注者側	12%		19%
	受注者側	44%		58%

前回と比較して、
 5%以上増えたものは上向き矢印
 5%以上減ったものは下向き矢印
 それ以外 は横向き矢印
 で表した。